



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 広報サポーターだより……………2ページ
- たねの簡単&おいしい『産直レシピ』…3ページ
- 地域の話（田原東部校区）……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

広報サポーターだより

電照菊の夜景に変化が！その秘密を探る！

市民発

皆さんこんにちは。広報サポーターの鈴木理絵です。菊の生産量日本一を誇る田原市では、年間を通じて生産できるよう、さまざまな工夫がされています。この時期に見られる電照菊もその一つで、美しい夜景を楽しむと観光客が訪れています。今回は、その栽培方法が変わりつつある電照菊と、最新の温室栽培の様子取材してきました。



●菊栽培の温室



●菊栽培の様子



●菊栽培について話す伊藤友雄さん



●LED照明

電照菊の赤色の照明の秘密は…

鈴木理絵（清田校区）



電

照菊とは、花芽ができる前の時期に電照し、人工的に日照時間を長くすることで開花時期を遅らせる栽培方法です。これにより、菊の需要が最も多い正月から春の彼岸の間に出荷できるようになりました。最近では、省エネの時代に合わせ、LED照明が導入されるなど栽培方法も変わりつつあります。

実際に、赤色LED照明を菊栽培に用いている菊農家の伊藤友雄さん（高松町）にお話を伺いました。

伊藤さんは、菊栽培をしている仲間と一緒に、国の補助金制度を使って、3年前に所有するハウスの3か所を蛍光灯から赤色LED照明に替えました。「LEDは、もともとハウスにある電気配線に電球を付け替えればいいので、導入しやすいですよ」と話す伊藤さ

ん。照明の耐用年数が長くなり、消費電力もかなり抑えることができたそうです。肝心の菊の生育状況については、蛍光灯に比べ何ら見劣りしないといいます。むしろ、赤色のLED照明を使うことにより菊の開花が抑制され、効率的だと話してくださいました。今は、試験的に青色のLED照明を一部分に導入し、生育状況にどのような変化があるかを調査しているそうです。

伊藤さんが生産するのは黄色の菊で、出荷先は東日本大震災の被災地である東北地方。東北地方の業者の方が伊藤さんの菊を気に入り、買い取りに来るといいます。「自分が育てた菊で、東北地方の人たちが元気になってくれたらうれしいです」と話す伊藤さんの笑顔はとても輝いていました。